

3/29 2004



Japanese Music Education Society

# News Letter

第15号

No.15

## 日本音楽教育学 ニュースレター

### 目 次

選挙管理委員会からのご挨拶とお知らせ .....	2
日本音楽教育学会会長及び理事の選挙について .....	3
平成15年度第4回常任理事会報告 .....	5
住所・所属変更及び新入会員住所 .....	7
新刊紹介・『音楽教育学大綱』 (S.アーベル=シュトルート著, 山本文茂監修) .....	8
会長立候補届 .....	11
会長候補推薦書 .....	12
事務局からのお知らせ／編集後記 .....	13

## 選挙管理委員会からのご挨拶とお知らせ

選挙管理委員会委員長 井口 太

この度、本学会会長村尾忠廣氏から、木間英子、中館栄子、福嶋省吾、本多佐保美の各氏及び井口太が選挙管理委員を委嘱されました。また委員の互選により井口が委員長、福嶋氏が副委員長に選出されました。委員一同、会員の皆さまのご協力をいただき、使命を全うしたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

さて、本年度は会長、副会長、理事の改選の年に当たります。また、すでにご存知の会員が多いことと思いますが、平成13年から、会長は会員の直接選挙によって選出することになりました。この実施に当たっては、会員の「立候補」、または会員による候補者の「推薦」の2通りによって候補者が立てられる必要があります。

次ページ以降に、本学会則、細則の他、関係の規程・選挙実施要領等に基づく「選挙の公示」および「実施方法」について記載しておりますので、よくお読みいただきますよう、お願いいたします。これにより、本学会にとってふさわしい会長が選出されますよう期待いたしますと共に、そのため

の各位の「立候補・推薦」を、見識を持って実行いただきますようお願い申し上げます。なお、会長候補者の推薦は、被推薦者の承諾が必要であること、一人の推薦者が複数の候補者の推薦はできないことの2点に十分ご留意下さい。副会長2名の選任は、発足後の新理事会の互選による1名と新会長の指名する1名によります。同時に行われる理事選挙は、地区ごとの正会員数に応じて算出される定員について投票していただきます。

なお、選挙実施に関して必要な会則、細則等は、投票用紙等を郵送する際に、資料としてお届けいたします。選挙についてご不明の点がありましたら、選挙管理委員会（事務局内）までお問い合わせ下さい。

E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

学会の発展と向上に向けて、各位の積極的な推薦、立候補をいただきますよう、お願いいたします。また、選挙管理委員会では公正で正確な選挙事務を進めて参りますが、各位のお支えとご理解をお願いし、以上、お知らせいたします。

# 日本音楽教育学会会長及び理事の選挙について

会員各位

平成16年4月1日  
日本音楽教育学会選挙管理委員会  
委員長 井口 太

## 公 示

### 日本音楽教育学会会長及び理事の選挙について

会長及び理事の任期満了に伴い、会長及び理事の選挙を、以下の手続きを踏んで実施しますのでご連絡いたします。

選挙については、本学会則第8条、第10条、第11条、第12条、及び細則第四章第12条、第13条、第14条、第15条、第16条、第17条及び本会選挙管理委員会規定、本学会長・副会長・理事選挙実施要領に基づいて行ないます。

なお、選挙についてご不明の点がありましたら、選挙管理委員会（事務局内）までお問い合わせ下さい。

### 会長選挙の実施方法

1. 選挙権者は、平成15年度の正会員（平成16年2月28日の理事会にて承認された方まで）で、平成16年5月末日現在、平成15年度までの会費納入済みの人です。なお、平成16年度入会者は、選挙権、被選挙権を有しません。
2. 会長は正会員の中から選出します。
3. 会長の任期は1期（3年）であり、したがってこれまでの会長経験者はその候補者から除かれます。
4. 会長候補者は、選挙権者からの推薦または立候補によって受け付けます。ただし、推薦の場合は当該候補者の承諾を得られたものであることとします。なお、一人の会員が複数の会長候補者を推薦することはできません。
5. 推薦または立候補をする際は、ニュースレターの最後に綴じ込まれている「会長立候補届」あるいは「会長候補推薦書」に必要事項を記入の上、4月30日（金）までに（必着）郵送して下さい。

(郵送先：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26号 日本音楽教育学会 選挙管理委員長)

記入された「届」あるいは「推薦書」は、選挙の際の資料として投票用紙などとともに全会員（有選挙権者）に配付（郵送）します。正確を期すためそのまま写真に撮って印刷しますので、読みやすくわかりやすい文章、字体でお願いします。

6. 投票は郵送によります。投票用紙などは、選挙権者確定の後、6月中旬に発送します。
7. 投票の締め切りは6月30日（水）（当日消印有効）です。
8. 開票は、締め切り後、すみやかにいき、結果は第35回大会プログラムに掲載し、承認は11月の総会（武蔵野音楽大学）にて行ないます。

### 理事選挙の実施方法

1. 選挙権者は、平成15年度の正会員（平成16年2月28日の理事会にて承認された方まで）で、平成16年5月末日現在、平成15年度までの会費納入済みの人です。なお、平成16年度入会者は、選挙権、被選挙権を有しません。
2. 理事の定員は、本会細則第15条により、各地区ごとの正会員数に応じて定められています。
3. 被選挙権者は、選挙権を有する者のうち、会則第11条を適用される者を除きます。今回の選挙でこれに該当する方は以下の通りです。

関東地区 筒石 賢昭, 丸山 忠璋  
北陸地区 伊野 義博  
近畿地区 杉江 淑子, 中原 昭哉  
中国地区 野波 健彦, 吉富 功修  
九州地区 平井 建二

4. 投票では各地区ごとに、その地区の理事を選出します。
5. 投票時の記名数は、本会細則第16条により、各地区ごとに定められています。
6. 投票は郵送によります。投票用紙などは、選挙権者確定の後、6月中旬に発送します。
7. 投票の締め切りは6月30日（水）（当日消印有効）です。
8. 開票は、締め切り後、すみやかにいき、結果は第35回大会プログラムに掲載し、承認は11月の総会（武蔵野音楽大学）にて行ないます。

# 平成15年度第4回常任理事会報告

平成15年度第4回常任理事会

日時：平成16年2月28日（土）14:00-

場所：日本女子大学

出席：村尾・平井・坪能・筒石・奥・加藤・重嶋・島崎・杉江・丸山

欠席：北山・藤沢

## 【報告事項】

1) 第34回大会運営費会計報告（杉江常任理事）

- ・余剰金のうち30万が学会に寄付された。
- ・反省点として本部事務局との連絡の不備，実行委員会の中での進行の遅れ等があげられた。
- ・対策として今後大会のマニュアルを作つて欲しいという要望が出された。

2) 第35回大会について

- ・会場：武蔵野音楽大学
- ・月日：11月13日（土），14日（日）
- ・実行委員長：坪能由紀子（日本女子大学）
- ・シンポジウムのテーマ：「再び，音楽教育学とは何かを問い直す」として検討（30年前の武蔵野音楽大学でのシンポジウムを再現したい）
- ・演奏会：武蔵野音楽大学（雅楽又は外国人講師による演奏会を予定）

3) 学会誌編集委員会（坪能編集委員）

- ・2月21日の編集委員会にて音楽教育実践ジャーナル2号の校正が行われ，3月下旬発送予定。

4) 30周年記念音楽事典

- ・現在5校，最終校終わり次第3月以内には見本版を出版にこぎつける予定。
- ・定価38,000円，500部発行を予定。

5) 音楽文献目録委員会

留任：今川 恭子（東京芸術大学）

齊藤 博（国立音楽大学）

本多佐保美（千葉大学）

6) 選挙管理委員会発足とタイムスケジュール

委員長：井口 太（東京学芸大学）

副委員長：福嶋 省吾（白梅短期大学）

委員：木間 英子（昭和女子短期大学）

中館 栄子（国立音楽大学）

本多佐保美（千葉大学）

1月30日（土）委員長決定

3月10日（水）公示，会長立候補用紙，推薦用紙確認

4月30日（金）会長立候補，会長推薦届け必着

5月31日（月）前年度会費納入締め切り

6月中旬 投票用紙発送

6月30日（水）投票締め切り（当日消印有効）

## 【協議事項】

1) 事務局長交代について

- ・筒石賢昭事務局長が一身上の都合により辞任，後任は北山敦康常任理事（静岡大学），任期は来年3月31日まで。

2) 第35回大会（武蔵野音楽大学）の実行委員会について

- ・今回は大会実行委員長を坪能由紀子副会長にお願いし，企画担当理事にも協力をお願いした。

3) 35回大会のプロジェクト, ラウンドテーブル, 基調講演について

① 企画担当理事より, 35回大会「口述発表応募要領」が提案され, 協議した。

② 今大会よりプロジェクト研究の一般公募は廃止し, それに代わって共同企画による発表を新たに設けることとした。

③ 基調講演についてはキース・スワニック氏 (ロンドン大学名誉教授) を予定

4) 学会誌大会特集号へのラウンドテーブル他の掲載について

・個人の発表はそのまま載せるがラウンドテーブルその他の物については選考とする。

5) 36回大会開催地について

・沖縄に決定。琉球大学を予定。期日は今後検討する。

6) 第8回音楽教育ゼミナール2005について

・2005年, 上越教育大学を事務局 (責任者小川昌文) として妙高で開催予定。テーマ及び時期については今後更に検討する。

7) 事務局のパソコン環境について

・ADSLに変更し, 新システムによるコンピュータを買い替える。

・費用は神戸大会実行委員会から寄付されたお金を充当する。

8) 編集委員会について

・作業が追いつかない状態なので, 今回は8月に臨時の委員会を開く。

・今後は電子メールを活用するよう努力する。

9) 大会運営費について

・今後, 大会運営費は全体会計とし本部へ報告, 本部からの大会運営費70万円については領収書を付けなくてもよい。赤字の場合の補填等, 引き続き協議していく。

10) 新入会員および退会者の承認

・新入会員者 11名

・申し出退会者 11名

・ご逝去 1名

・平成16年2月28日現在 1600名

11) その他

・新入会員紹介

3140 佐々木幹夫 岩泉町立釜津田小学校

3141 大和美香子 兵庫教育大学院生

3142 黒木 知美 香蘭女子短期大学

3143 篠田 美里 東海女子短期大学

3144 猪野 純 いのミュージック・ボ FUN

3145 原 鉄郎 根岸幼稚園

3146 高田七津子 宇都宮大学

3147 前田真由美 兵庫教育大学研究生

3148 村上 卓郎 東京学芸大学附属養護学校

3149 新村 元植 鹿児島女子短期大学

3150 竹本 千智 滋賀大学院生

\*\*\*\*\*

ニュースレターNo.14議事録訂正事項 5 ページ 7) 補正予算について

1) 「研究出版基金に100,000円」→「研究出版基金に1,000,000円」

2) 「ゼミナール積立金として150,000円を組み込んだ」→削除 (ゼミナール積立金については, 一昨年第33回大会の総会で承認された15年度予算案に組み込み済み。)

\*\*\*\*\*

ニュースレターweb版では  
個人情報に関する記事は削除しています

【新刊案内】

S.アーベル=シュトルート著，山本文茂監修  
中嶋敬彦他9名監訳，佐野靖他38名共訳  
『音楽教育学大綱』  
音楽之友社，平成16（2004）年1月

東京藝術大学 山本文茂

「音楽などというものは，子どもたちの好みや興味関心に応じて，個人的に楽しんだり学んだりするべきものであって，学校で集団として行われる教科としての学習には，音楽はもともとなじまないものだと思いますが，どうなんですか。山本先生，すべての生徒に音楽や美術を学ばせなくてはならない理由を納得のいくように説明してください。」

もう30年以上も前のことですが，職員会議の席上で，或る理数系の先生からこんな質問をされ，まともに答えられなくて悔しい思いをしました。今なら，①感動体験の共有，②知性と感性の融合，③精神の集中と意思の持続，④人間感情の純化，⑤感性による現実認識の5点から，きっちりと説明できるのですが。

このような根本的な問題，すなわち，音

楽教育の目的・目標，内容・教材，計画，方法，評価といった音楽の教育課程に関わる諸問題を歴史的・哲学的・心理学的・社会的・その他の方法によって解明し，これを音楽の授業の改善に役立てていく学問体系を私たちは「音楽教育学」と考えているのですが，その学問的基盤についてはさまざまな考え方があります。

日本では昭和初期頃から，草川宣雄，青柳善吾といった人々がこの分野の草分け的な先駆者として大変な努力をされました。戦後は教育大学教官を中心とした教科教育学的研究を経て，昭和45（1970）年，本学会が設立され，ようやく本格的な音楽教育学研究が蓄積されるようになります。しかし，音楽教育学としての学問的基盤（性格，対象，方法，分野・領域，構造・関係位置など）が現状では十分に固まっていなため，日本固有の音楽教育学はまだ確立されたとは言えません。

そこで，とりあえず先進諸外国の音楽教育学に学ぶことになりませんが，量的には，もちろんアメリカ音楽教育学が突出しているものの，質的には，なんと言ってもドイツ音楽教育学に軍配が上がります。

ドイツでは，19世紀末から20世紀初頭にかけて，H.クレッチュマール，G.シューネマン，R.ヴィツケといった人々が，音楽学研究の一部として音楽教育に関する諸問題の学問的研究を展開しました。1920年代には，L.ケステンベルクが学校音楽教育改革の理論的根拠を提起し，それを着実に実行に移すという快挙を成し遂げました。1933年以後，ナチス政権下で抑圧されていた音楽教育学研究は，1950年代以後飛躍的な発展を遂げますが，その中心的役割を果たしたのは，1965年発足の「音楽教育研究会」[後に音楽教育学研究会（AMPF）と改称]でした。そのAMPFの中核的存在として，発足以来活発な活動を展開してきた人物がジークリト・アーベル＝シュトルー

ト女史でした。

彼女は，M.アルトの『音楽教授学』（1968）について，〈芸術作品への方向付け〉という根本原理によって音楽教育学の新たな基礎固めを行った試論として，これを高く評価しましたが，音楽学に匹敵する「学問としての音楽教育学」としてはアルトの著作だけでは十分とは言えないと考え，自ら原書で700頁を越す大著『音楽教育学大綱』（1985）を執筆したのです。このドイツ音楽教育学のひとつの集大成とも言える大著を出版した2年後に，残念ながら女史は他界されました。私は，その学問体系のスケールの大きさ，理論構築の厳密さ，学問的フレームの的確さに圧倒されるとともに，わが国音楽教育学の再構築のモデルとして，何としてもこれを邦訳しなくてはならないと考えました。

そこで平成9（1997）年，ヴェテラン・中堅・若手の研究者，計39名の共訳者（うち10名は章監訳者）を組織して翻訳作業を開始することにしました。作業は思いのほか難航し，危うく座礁するところでしたが，幸いにも日本学術振興会の出版助成を受けて，このたびの翻訳出版が実現しました。図1は山本の音楽教育学構想，図2はアーベル＝シュトルートの音楽教育学体系です。両者をじっくり見比べていただければ，この本の翻訳出版の意味がおおよそお分かりいただけるのではないのでしょうか。

教育現場の音楽の先生方，どうぞこの本を一度実際に手にとってみてください。このずっしりと重い788頁の『音楽教育学大綱』は，決して明日の音楽授業に直接役立つ本ではありません。しかし，私がそうであったように，大きな問題にぶつかったとき，この本はきっと先生方を勇気付けてくれるでしょう。音楽教育の分野では，こんな高価な本はめったに出版されませんが，価値ある専門書として学校の図書室に1冊，ぜひ備えてほしいと思います。



図1 音楽教育学の構造 [山本文茂『音楽教育研究の方法と分野』(1992)  
音楽之友社 p.248 より]

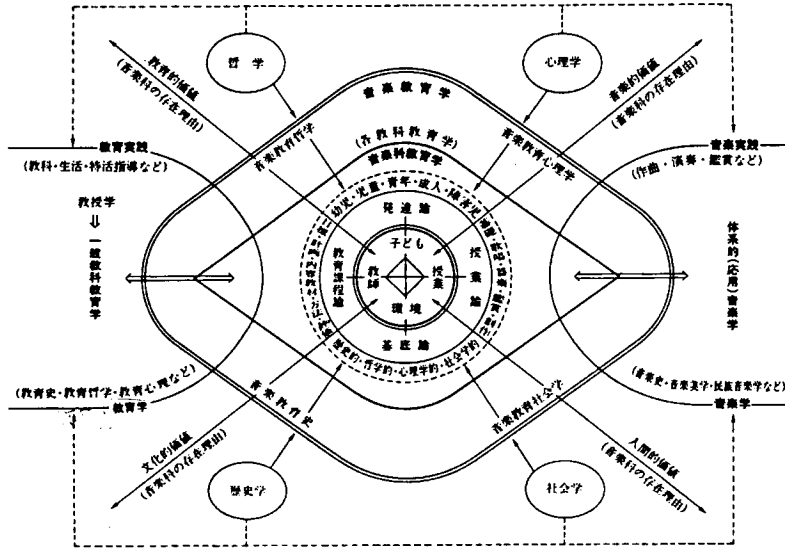
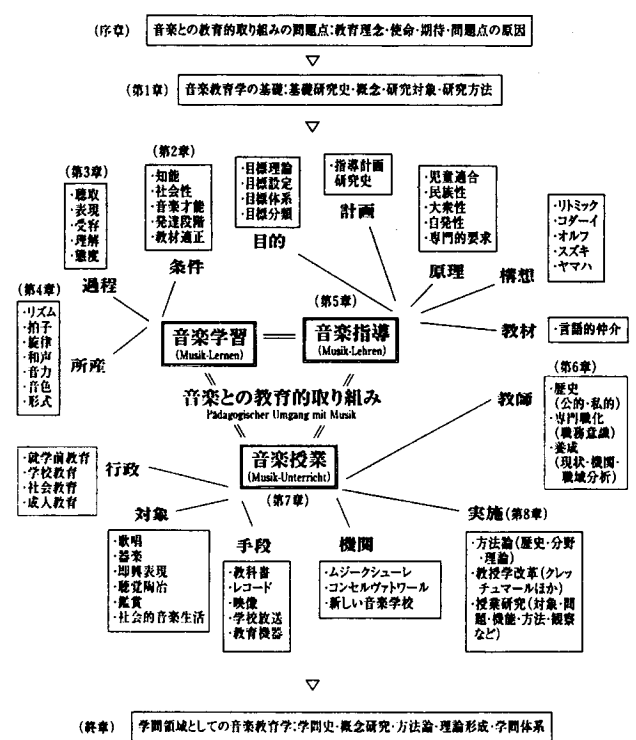


図2 アーベル=シュトルート著『音楽教育学大綱』(1985)の理論枠組み  
同著、山本文茂監修、佐野靖他 38名共訳『音楽教育学大綱』(2004)音楽之友社 p.761 より



平成 年 月 日

選挙管理委員長殿

## 会長立候補届 記載事項

立候補者 氏 名		年齢	
経 歴			
学会の あり方、 将来に 対する 見解			

平成 年 月 日

選挙管理委員長殿

# 会長候補推薦書

## 記載事項

候補者 氏名	
所属	
推薦理由	

推薦者氏名

印

## 事務局からのお知らせ

### 1) 平成16年度会費納入について

平成16年度会費（7,000円）を同封の振替用紙にて納入してください。本学会は皆様の年会費で運営しております。なるべく早くお振込下さいますようお願い致します。

### 2) 住所・所属等の変更届について

住所・所属等を変更された会員は葉書・ファックス・メール等で必ず事務局にご通知ください。その際、変わられた個所のみでなく氏名・住所・所属・電話番号（ファックス・メールアドレス）も記入してください。

### \*\*\*\*\* 編集後記 \*\*\*\*\*

また新しい年度が始まります。どの学校も新入生を迎えて、今年はこんな工夫を、こんな授業をと考えていらっしゃることでしょう。そして、引き続きの研究、新しい研究への意欲も同時に感じていらっしゃることでしょう。1歩前進できるよう努力したいと思えます。

本誌の冒頭にもあるように、今年は選挙の年です。かつての選挙管理委員としての経験から、投票される会員が少ないのが気になっております。学会の会員として大切な権利であり義務である投票を、多くの会員が実行してくれることを強く願っています。

(藤沢章彦)

先月のこと。同僚のS氏と新大阪の駅ビルを歩いていて、彼に誘われるままにコンピュータ占いをやることになった。映画「ローマの休日」で有名な「真実の口」の形を模したものだ。口に手を入れてしばらくすると葉書大の紙に占いが印字されて出てきた。「アナタハシュウイノジョウキョウヤイケンニフクジュウシナイヒトデス」あたりはまだいいが、「アナタノコノミトハンスルコトヲシナケレバナラナイジョウタイニオイヤラレルコトガアリマス」となると問題は大きい。仕事運と健康運が10点満点で3ポイントと最も低い。なぜか愛情運だけが7ポイントと比較的高いことだけが救いだ。

(北山敦康)

\*\*\*\*\*

【日本音楽教育学会役員（2002-2004年度）】

会長：村尾忠廣 副会長：平井建二・坪能由紀子

常任理事：筒石賢昭（事務局長），奥忍・藤沢章彦・北山敦康（総務），  
加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋（企画）重嶋博・杉江淑子（会計）

理事：浅井良之（北海道），丸林実千代（東北），伊藤誠・今川恭子・  
小山真紀・阪井恵・山本文茂（関東），伊野義博（北陸），南曜子（東海），  
中原昭哉・竹内俊一（近畿），野波健彦・吉富功修（中国），  
田邊隆（四国），木村次宏（九州）

【事務局住所】〒184-0015東京都小金井市貫井北町2-5-22ハイッシーダ1-102

【私 書 箱】〒184-8799東京都小金井郵便局私書箱26

Tel/Fax：042-381-3562 e-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/index.html>